

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科	科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科目名	一般臨床医学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	夜間部2年	学期及び曜時限	前期	教室名	802
担当教員	本岡 健太郎／高野 佳子				
実務経験と その関連資格	<p>高野:看護職として急性期から終末期の機能を有する病院で28年、その後医療介護領域における機能回復・在宅復帰を中心とする施設に1年勤務。また認定看護管理者として14年、医療安全管理学修士修得後6年という経験を活かし管理・教育活動に従事。非常勤講師としては、京都保健衛生専門学校において看護の総合と実践を担当。</p> <p>本岡:作業療法士として身体(老年期含む)障害領域の病院で5年間勤務。作業療法士として精神障害領域の病院で2年間勤務。主たる疾患として、リウマチ、脳梗塞、パーキンソン病、統合失調症などのリハビリテーションに従事。</p>				
《授業科目における学習内容》	<p>高野:薬力学と薬物動態学の観点から薬理学(作用機序、投与方法、体内動態、副作用など)を理解し、作業療法士として対象者(患者)に関わる意義を学ぶ。</p> <p>本岡:各種の病理学的な病態について、どの組織がどのように変質・変化し、人体へ影響を及ぼしているかを理解し、個々の言葉で説明できるようにしてください。</p>				
《成績評価の方法と基準》	<p>定期試験 : 90%</p> <p>小テスト : 10%</p>				
《使用教材(教科書)及び参考図書》	<p>病理学(標準理学療法学・作業療法学 梶原博毅監修)</p> <p>薬理学(リハベーシック薬理学・臨床薬理学 内山靖・藤井浩美・立石雅子 編 医歯薬出版株式会社)</p>				
《授業外における学習方法》	<p>高野:復習として前回講義分の練習問題を毎回実施するので学習しておいてください。</p> <p>本岡:各講義で解剖学・生理学の復習が必要です。基礎知識が乏しい場合、内容の理解が難しくなることが予想されます。身体構造がイメージできるように予習をお願いします。</p>				
《履修に当たっての留意点》	<p>高野:チーム医療における専門職としての役割を考えてください。また薬物治療と疾患を関連づけて学習してください。</p> <p>本岡:体の内部のことで、見えない事です。体内で生じていることが自らイメージできるよう、質問して解決してください。</p>				
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	薬理学の成り立ちを知り、薬が作用するしくみや薬物動態を学ぶ	教科書 配布プリント	薬物による疾病の治療について予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	薬理学とは何か 薬力学(薬物受容体・イオンチャネル・酵素・トランスポーター) 薬物動態学(薬物の投与経路・薬物の吸収・分布・代謝と排泄・指標)			
第2回	授業を通じての到達目標	薬物動態を学ぶ 中枢神経系に作用する薬物が理解できる	教科書 配布プリント	第1回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 中枢神経系の構成と機能は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	薬物相互作用・影響因子・有益性と危険性 神経系概論、治療薬(認知症、パーキンソン病、統合失調症、てんかん、うつ病と躁病) 催眠薬・抗不安薬、麻薬性鎮痛薬			
第3回	授業を通じての到達目標	中枢神経系に作用する薬物が理解できる 末梢での神経活動に作用する薬物が理解できる	教科書 配布プリント	第2回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 自律神経系の概要は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	催眠薬・抗不安薬、麻薬性鎮痛薬 神経系による情報伝達、自律神経系作用薬、交感神経作用薬、副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬			
第4回	授業を通じての到達目標	循環器系に作用する薬物が理解できる	教科書 配布プリント	第3回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 循環器系(心臓、腎臓)の解剖生理と疾患は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	循環器疾患とは 降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物			
第5回	授業を通じての到達目標	呼吸器系・消化器系に作用する薬物が理解できる	教科書 配布プリント	第4回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 呼吸器系(気道・肺・胸膜・縦郭) 消化器系(消化管・肝臓・膵臓)の解剖生理と疾患は予習しておいてください	
	各コマにおける授業予定	呼吸器疾患とは 気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去痰薬・呼吸促進薬 消化器疾患とは消化性潰瘍治療薬、胃粘膜防護薬、制吐薬、下痢と止痢薬、炎症性腸疾患			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	内分泌に作用する薬物が理解できる 抗炎症薬が理解できる	教科書 配布プリント	第5回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 ホルモンと内分泌疾患、炎症と疾患は予習しておいてください
	各コマにおける授業予定	ホルモンとホルモン拮抗薬(糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬)ビタミンNSAID、膠原病、痛風治療薬、抗アレルギー薬		
第7回	授業を通じての到達目標	抗感染症薬、抗癌薬 免疫治療薬が理解できる	教科書 配布プリント	第6回目の講義内容から確認テストを行うので復習しておいてください。 感染症、がん、免疫疾患は予習しておいてください
	各コマにおける授業予定	感染症とは、耐性・菌交代症・日和見感染、抗菌薬、ウイルス感染症、真菌 がん治療と、抗がん薬(細胞傷害性、分子標的薬) 免疫系とは、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬		
第8回	授業を通じての到達目標	脳画像(MRI・CT)画像を見るための脳の部位などの基礎的な解剖学知識を列挙でき、且つ脳の図から選択できる	教科書・プリント	
	各コマにおける授業予定	脳画像(MRI・CT)画像		
第9回	授業を通じての到達目標	脳画像(MRI・CT)画像から脳の部位・障害を選択できる	教科書・プリント	
	各コマにおける授業予定	脳画像(MRI・CT)画像		
第10回	授業を通じての到達目標	病理学について説明できる。炎症・感染症(分類・経路・予防)について理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書・プリント 病理学の概要	炎症の5大徴候について調べておくこと
	各コマにおける授業予定	総論 1:病理学の概要 総論 2:病因論 各論 7:炎症・感染症		
第11回	授業を通じての到達目標	腫瘍(癌腫と肉腫・転移と浸潤)、細胞・組織障害(特に退行性病変と進行性病変、壊死とアポトーシス、再生医療と修復過程)を理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書・プリント	壊死とアポトーシスの違いについて予習しておく 国家試験過去問の腫瘍に関する問題を見ておく
	各コマにおける授業予定	総論 3:退行性病変、進行性病変 総論 8:腫瘍		
第12回	授業を通じての到達目標	廃用症候群の病因・分類・代表的疾患について理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書・プリント P.93～P.100	廃用症候群にどのような疾患があるかを調べておくこと
	各コマにおける授業予定	総論 9:老化		
第13回	授業を通じての到達目標	全身循環障害(高血圧など)・局所循環障害(血行障害)などの循環障害を理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書・プリント P.115～P.133	心臓の構造・血液の流れを調べておくこと 血栓症・塞栓症・梗塞について調べておくこと
	各コマにおける授業予定	各論 1:循環器		
第14回	授業を通じての到達目標	呼吸器の構造、障害の種類と病態・病因を理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書・プリント P.134～147	呼吸器の構造を調べておくこと アルカローシス・アシドーシスについて調べておくこと
	各コマにおける授業予定	各論 2:呼吸器		
第15回	授業を通じての到達目標	消化器・栄養・代謝障害(糖代謝異常・アミノ酸代謝異常・脂質代謝異常)について理解し、各項目について列挙・説明できる	教科書・プリント 代謝障害 P.27～P.36 消化器 P.148～P.173	消化器の種類・構造・位置を調べておくこと 「代謝異常は何故生じるか」を調べておくこと
	各コマにおける授業予定	総論 4:代謝障害 各論 3:消化器		